

## I 研究の経過と概要

東山梨地区 保護者・地域住民との提携部会

### 1. 研究テーマ 「開かれた学校づくりをめざして」

子どもたちの抱えている問題やその背景にある社会・地域の課題を明確にしながら、子どもたちが一人の人間として社会的自立を果たしていくためには、学校・家庭・地域社会がそれぞれの責任を明確にするとともに、それぞれを補完し合いながら地域全体で子どもの成長を支えていくことが必要である。また、学校のあり方を見直し、「学校が地域社会へ参画する」をめざし、「地域とともにある学校」＝「開かれた学校」づくりにとりくまなくてはならない。

近年、学校では、外部講師の依頼、保護者・地域住民などを対象に行う学校評価・授業評価、学校評議員制の流れを汲む組織の設置等、学校運営に関して外部の声を取り入れることが増えている。教育基本法には「学校、家庭及び地域住民その他の関係者は、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を努めるものとする。」との規定（第13条）が置かれた。また、学校教育法では、「小学校は、当該小学校に関する保護者及び地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該小学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を積極的に提供するものとする。」と定められた（第43条）。さらに、学習指導要領の中にも、学校・家庭・地域住民相互の連携及び協力の必要性に関する記述が多い。これらのことは学校と地域・社会・保護者との連携の必要性が高まっているからと思われる。

学校は地域社会を離れて存在し得ないものであり、児童は家庭や地域社会で様々な経験を重ねて成長している。本研究会では「開かれた学校づくりをめざして」学校を開くことの意味を問いながら、地域・保護者との関わり方を学び、そのことが子どもの成長、学校の成長、地域の活性化に生かされるようなとりくみについて検討していきたい。

#### 【研究の方向性】

- I 学校と地域・保護者との関わり方・連携の方策について
- II 学校・子どもたちが地域の人々や保護者とのつながりを生み出す実践
- III 研究の成果の共有（情報の発信も視野に入れながら）

### 2. 研究内容・方法

①部員によるレポート報告をもとに討議し、研究を深める。

各自、各校の実践を通して、子どもたちの変容の様子、問題点、悩みなどを提案し、それについて討議する。

②保護者・地域との連携について、授業実践を通して、研究を深める。

③常任講師の先生方には、常時ご助言・ご指導をいただくとともに、保護者・地域との関わりや連携について情報提供していただく。

④夏季学習会では、郷土に関わる施設等の隣地研修を通して、研究を深める。

### 3. 研究組織

部長	立川 慶樹 (山梨南中)	
副部長	古屋 雅章 (八幡小)	倉田 和美 (勝沼小)
世話人	本宮 聡 (八幡小)	新藤 徹 (塩北小)
常任講師	廣瀬 学 (大和小)	

#### 研究メンバー

中村悦子 (塩山南小)   雨宮加代子 (塩山南小)   中村直人 (井尻小)  
 新海小緒里 (大和小)   飯室美華 (大和小)   渡邊由美子 (松里小)  
 加々美教子 (笛川小)   武藤有希 (笛川小)   那須美佳 (笛川小)  
 堀内友貴 (勝沼小)   丸山正史 (勝沼中)

計 17 名

### 4. 年間計画

	月 日	会場	司会	記録	内 容
1	5. 6	山梨南中			研究テーマ, 研究内容・方法の決定
2	5. 18	山梨南中	塩山南小	井尻小	年間計画・授業者の決定 県教研の報告
3	6. 1	山梨南中	井尻小	大和小	発表: 勝沼中 松里小
4	8. 1	山梨南中 他	大和小	松里小	<b>夏季学習会</b> ①授業案検討 ②発表: 八幡小 ③学習会
5	8. 31	大和小	松里小	笛川小	<b>統一授業研</b> 授業研究: 飯室美華 (大和小)
6	9. 28	山梨南中	笛川小	勝沼小	<b>秋季教研</b> 発表: 勝沼小 井尻小
7	11. 30	山梨南中	勝沼小	勝沼中	発表: 塩山南小 山梨南中
8	1. 11	山梨南中	勝沼中	八幡小	授業案検討
9	2. 8	笛川小	八幡小	塩山南小	<b>統一授業研</b> 授業研究: 加々美教子 (笛川小)
10	2. 15	山梨南中	笛川小	大和小	<b>冬季教研</b> 今年度のまとめ

### 5. これまでの研究の歩み

【第2回 5月18日】年間計画, 授業者の決定, 春季教研の報告

【第3回 6月 1日】実践発表

- ・地域に根差した農業体験学習 (勝沼中)
- ・生活単元「工場見学に行ってみよう」 (松里小)

【第4回 8月 1日】

- ・授業案検討 大和小 飯室美華先生
- ・実践発表 保護者・地域住民を巻き込んでのとりくみ, 保・小・中の連携,

いきいき教育地域人材活用推進事業の利用 (八幡小)

- ・地域ぐるみの防災対策学習会 (講師：山梨市総務課防災担当)

【第5回 8月31日】統一授業研

- ・研究授業 大和小 飯室美華先生 6年生道徳「郷土を愛する心」

【第6回 9月28日】秋季教研 実践発表

- ・学校支援ボランティア，親子活動，総合的な学習「勝沼の歴史」(勝沼小)
- ・ふれあい祭り，総合的な学習「ころがきづくり」，全校ころがき集会(井尻小)

## II 実践報告 小学校道徳第6学年における実践

### 第6学年 道徳学習指導案

指導者 甲州市立大和小学校

飯室 美華

1 主題名 「郷土を愛する心」 4－(7) 郷土愛

2 資料名 「町名を守る」 (みんなの道徳 5年 学研)

#### 3 主題設定の理由

##### (1) ねらいとする価値

郷土を愛する心は、自分の住む郷土や国を少しでもよいところにしよう、住みやすいところにしようという自然なものである。それらは自分の生まれ育った郷土の文化・伝統や発展に尽くした先人たちの努力を知ることなどを通して、少しずつ形成されていくものである。また、それらのすばらしさに目を向けさせることによって、いっそう強化されていくものである。

地域のよさや特色に気づくには、児童自ら親しむことが第一歩である。また、地域に親しむことによっていろいろな発見があり、自然と地域に愛着を感じるようになっていくと思われる。一方、そこに住んでいると、それが当たり前と考え、よさに気づかないこともある。そこで、今まで住んでいる地域を見つめなおすことで、さらに自分の住んでいる地域に愛着をもち、大切にしていこうとする心情を培いたいと考える。

##### (2) 児童の実態

男子5名、女子3名、計8名の学級である。限られた少ない人数の中でも、児童同士の仲が良く、毎日元気に生活している。学校では休み時間や放課後、外に出て遊んでいる子が多い。しかし、下校後は、近所の子どもと集まって遊ぶということが少なく、毎日長時間テレビ・動画を見たり、ゲームをしたりしている。また、幼い面もあり、自己中心的な言動も見られる。

子どもたちは、6年生までの社会科・生活科や総合的な学習の時間で、郷土についての学習を多くしてきた。校外学習では、竜門峡や大蔵高丸、大菩薩を訪れ、地域の自然を知ることができた。また、地域の中の催し物への参加する機会も増え、郷土の文化・行事や日本の伝統的な行事などに触れることも多くなってきている。

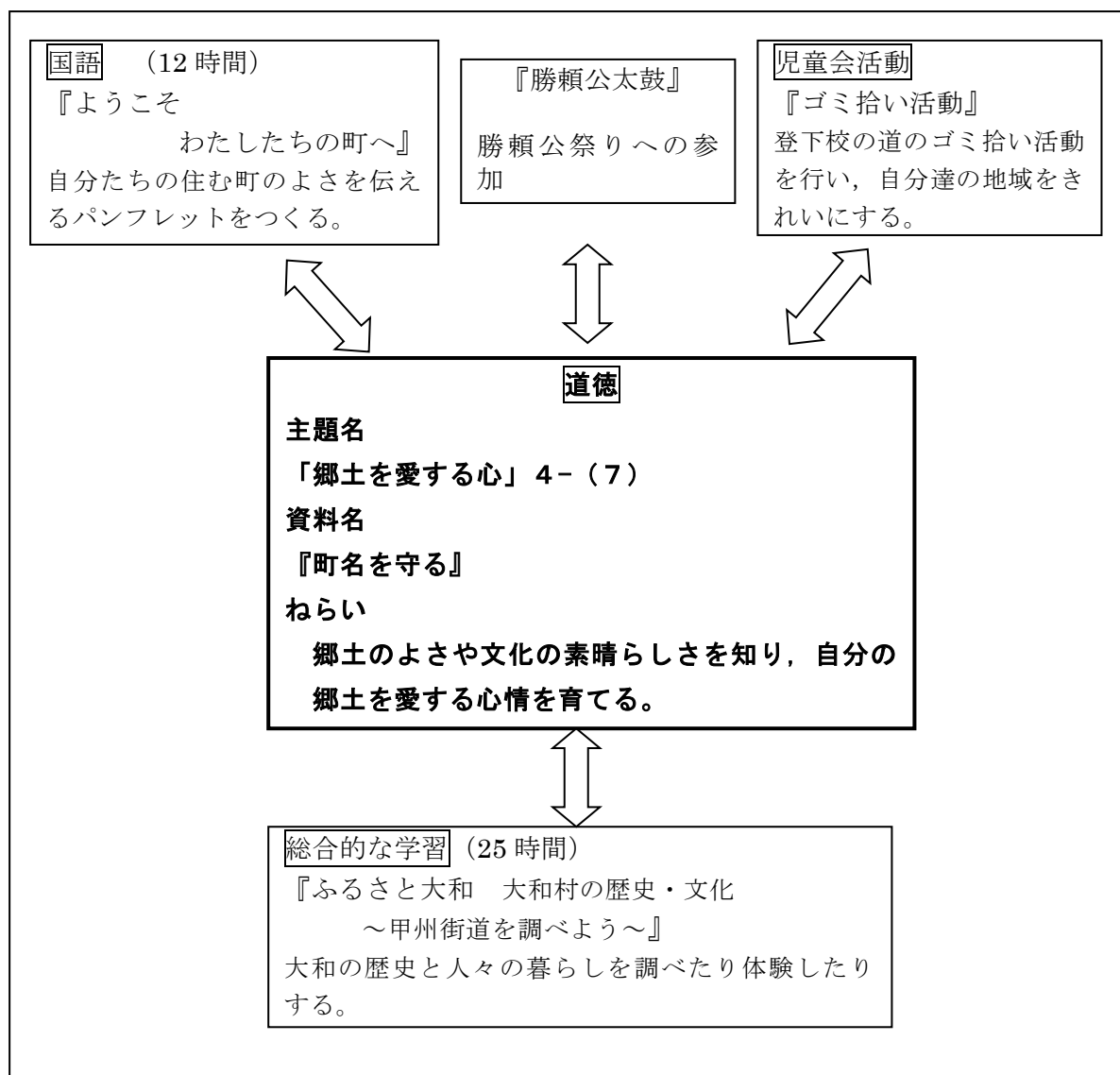
事前調査では、8人中6人が大和地区を「好き」「まあまあ好き」と答えている。また、大和地区の好きな場所・おすすめの場所を聞いた問いについては、今までの学習や経験をもとにして答えていた。しかし「なし」と答えた児童も3名いた。「なし」と答えた児童たちも、地域への愛着は感じているようである。より郷土に対する愛着を高め、自分にとって大和地区は大切な場所であると感じられるようにしたいと願い、本授業を設定した。自分から積極的に郷土の人やものに触れ、今後の学習に進んでとりくんでいけるようになってほしいと考える。

### (3) 資料について

町名変更によって古い町名がなくなろうとしていることを知った人々が、親しんできた町名を残していこうと地域の人々に呼びかけ、伝統的な地名を守ったという話である。本資料では、同じように合併前の村名を残している大和地区で生活している児童にとっては共感しやすい内容であるといえる。資料の場面をより身近に感じさせ、古い歴史や地名を大切にしている人々に共感させることを通して、自分たちが住む場所への愛着を感じとらせたい。



(4) 各教科・特別活動等の関連



(5) ゲストティーチャーについて

本時は、大和地区で自動車整備工場を営む佐藤照幸さんをお招きし、話を聞く。小学校のPTA会長、消防団長などの経験もあり、地域への関わりがとても深い方である。他県に住んだ経験もある佐藤さんからみた、大和地区のよいところ、守りたいことなどをお話していただく。


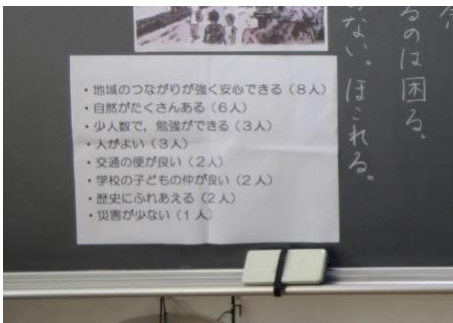
4 本時の学習について

- (1) 日時 平成28年8月31日(水) 14:00～14:45
- (2) 場所 甲州市立大和小学校 第6学年教室
- (3) 本時のねらい

☆郷土のよさや文化の素晴らしさを知り、自分の郷土を愛する心情を育てる。

(4) 展開

	学習活動と主な発問	期待する児童の姿	指導援助の方法と留意点
<p>導入 3分</p>	<p>1. 自分たちの住む郷土・大和地区のよさについてどんな考えをもっていたか、アンケートの結果を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大和地区のよいところを考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の事前調査の結果を紹介する。</li> </ul>
<p>展開前段 20分</p>	<p>2. 資料「町名を守る」を読み、三宅さん夫婦の思いについて話し合う。</p> <p>○三宅さん夫婦は三次の町のよさはどんなところだと考えているでしょうか。</p> <p>○町名変更の計画が市役所から出されたとき、三宅さんはどんなことを考えたでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料を読む。</li> <li>●三次のまちのよさを考えている。</li> <li>・古い町並みが残っている。</li> <li>・名前がいい。</li> <li>●昔から親しんできた町名を残そうとする三宅さん夫婦の気持ちを考えている。</li> <li>・さみしいし、悲しい。</li> <li>・さみしいけどしょうがない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料を範読する。</li> <li>・場面絵を示し、場面を想像しやすくする。</li> <li>・古いものが残る町並みのよさを大切にしている三宅さんの気持ちに共感させるようにする。</li> <li>・三宅さん夫婦の気持ちや思いを考えさせることで、郷土を愛する気持ちを捉えさせる。</li> </ul>

	<p>◎夫婦 2 人だけで反対運動を始めた三宅さんは、町の人々にどんなことを伝えたかったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三宅さん夫婦の町名を残したいという気持ちに気づく。</li> <li>●町名を消してはいけない。</li> <li>●昔からの町名を守らなくてはならない。</li> <li>●暮らしやすさも大切だけれど、守らなくてはならないものもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークシートに書くようにさせる。</li> <li>●町名を変更することの便利さや不便さを離れ、便利さ以上に大切なものを町の人たちに伝えていったことに気づかせる。</li> </ul>
<p>展開後段 17分</p>	<p>3. 大和地区在住のゲストティーチャーの話を知る。</p>  <p>4. 保護者のアンケートの結果を知る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ゲストティーチャーの話を知り、大和地区のよさや文化の素晴らしさに気づく。</li> <li>●大和地区のよいところを考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大和地区の人びとの関わり方や、子どもたちへの願いなどを話していただく。</li> <li>●話の内容の写真を用意しておき、提示する。</li> <li>●事前に保護者に実施したアンケートの結果を発表する。</li> </ul>
<p>終末 5分</p>	<p>5. 今日授業を振り返って考えたことを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●今日の学習を振り返りながら大和地区のよいところについて考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークシートに書くようにさせる。</li> <li>●時間に余裕があれば、数人の児童に発表させる。</li> </ul>

## 5 評価

郷土のよさや文化の素晴らしさを知り、自分の郷土を愛する心をもつ。

児童のワークシートより

町名を守る

8月31日

6年 名前( )

夫婦2人だけで反対運動を始めた三宅さんが、町の多くの人々に伝えたかったことはどんなことだったでしょうか。



三次市の清かな水はすまは全国にほめるものだ。それをよくあらわしているのが昔からの町名だ。だから残しておいた方がいい。

授業を終えて わかったこと 思ったこと

大和町にも三次市のような事があってびっくりした。ぼくも町名を守ろうと思えば大和町の自然を大事にしていきたい。



町名を守る

8月31日

6年 名前( )

夫婦2人だけで反対運動を始めた三宅さんが、町の多くの人々に伝えたかったことはどんなことだったでしょうか。



昔から変わっていけない町名を変えてしまうとまたいけいから大切にしたい方がいい。

授業を終えて わかったこと 思ったこと

大和町は自然がたくさんありみんながましまっていてすく良い町だなと思いました。町名を守るのお話みたいにこれからも昔からの文化などを大事にしていきたいです。

町名を守る

8月31日

6年 名前( )

夫婦2人だけで反対運動を始めた三宅さんが、町の多くの人々に伝えたかったことはどんなことだったでしょうか。



古い城下町や白いかべや古い土蔵が残っていて昔から親しまれてきた町を消すと思うと残念。

授業を終えて わかったこと 思ったこと

大和はとても良い所だから昔からの伝統を受けついでこれからも生活していきたい。甲斐大和馬屋の前か「初鹿野馬」だったなんて初めて知れて良かったです。



## 保護者アンケート結果

大和地区のいいところ・好きなところを教えてください。(7家庭14人回答)

地域のつながりが強い。安心できる。 (8人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔からの顔なじみの人がたくさんいて、ご近所同士のつながりが強い。</li> <li>・地域の結びつきが強い。</li> <li>・地域の方たちとも「あいさつ」「お祭り」などふれあう機会が多いので、優しく見守られていて安心できる場所です。</li> <li>・いろいろな世代の人と交流があり、安心感がある。</li> <li>・お互いによく知っている。</li> <li>・地域の人との交流があり、安心して生活できる。</li> <li>・大和の中に人が少ないので、仲間関係がしっかりしている。</li> <li>・近所の方、みんなが自分のことのように子ども達の面倒をみてくれ、安心できる。</li> <li>・大和全体でする行動が、年間何回かあるので、みんなとのふれあいができてよい。</li> </ul>
自然がたくさんある。 (6人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然がいっぱいある。</li> <li>・緑と自然が豊かで空気がきれい。</li> <li>・動物がいる。</li> <li>・静か</li> <li>・山や川が近くにあるので、自然を相手に遊ぶことができる。</li> <li>・自然が多いので、子どもが遊びやすい。自然の中で考えることができる。</li> </ul>
少人数で、勉強ができる。 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生は子どもが少ないので、先生と子どもの距離が近く、勉強もほかの学校より勉強できていると思います。</li> <li>・落ち着いて勉強できる。</li> <li>・少人数なので教育の質が高いと思う。</li> </ul>
人がよい。 (3人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優しい人が多い</li> <li>・子ども達の気持ちがやさしい。</li> <li>・協力的な人が多い。</li> </ul>
交通の便が良い。 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅や高速バスのバス停が近く、交通の便が良い。</li> </ul>
学校の子どもの仲が良い。 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生から6年生まで仲が良い。</li> <li>・学年、男女の壁がなくみんな仲良し。</li> </ul>
歴史にふれあえる。 (2人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的にも武田勝頼が身近な存在なので、自然と歴史にふれあえていると思います。</li> </ul>
災害が少ない。 (1人)	

児童 事前アンケート (8月中旬実施)

1.大和地区は好きですか？

①好き ②まあまあ好き ③どちらともいえない ④あまり好きではない ⑤きらい

児童名	A	B	C	D	E	F	G	H
	2	4	3	2	1	1	1	2

2.1の理由を教えてください。

好きな理由 好きではない理由

	A	B	C	D	E	F	G	H
友だちがいる	○			○	○	○	○	○
お祭りや行事がある	○			○	○	○	○	○
地域の人とふれあえる	○					○	○	○
愛着がある	○		○			○	○	
遊ぶ場所がある				○	○		○	
歴史・伝統・文化がある						○	○	
自然がたくさんある		○				○		○
安全					○			
交通の便が良い								
その他		つまらない ポケモン がない						

3.大和地区で好きな場所、おすすめの場所はありますか？またその理由を教えてください。

	A	B	C	D	E	F	G	H
場所	景德院	なし	なし	スポーツ 公園	ふるさと 会館	なし	こしかけ石	竜門峡
理由	勝頼公のこ とが学べる			広い、人が 使ってない	本がたくさん ある		残っている のがすごい	自然が たくさんで きれい

児童 事後アンケート (9月6日実施)

1. 大和地区は好きですか？

①好き ②まあまあ好き ③どちらともいえない ④あまり好きではない ⑤きらい

児童名	A	B	C	D	E	F	G	H
	1	3	2	2	3	1	1	1

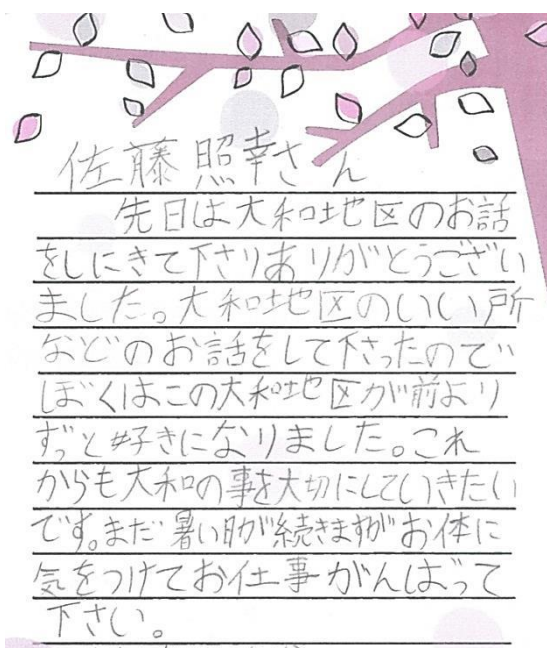
2. 1の理由を教えてください。

好きな理由      好きではない理由

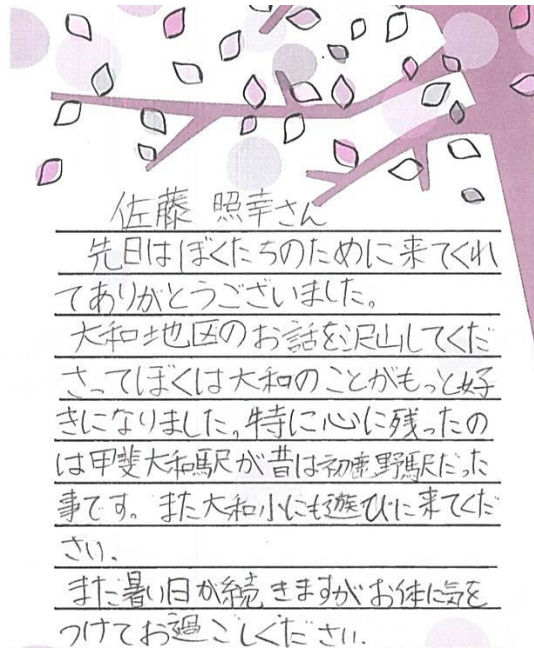
	A	B	C	D	E	F	G	H
友だちがいる	○	○	○	○	○	○	○	○
お祭りや行事がある	○			○		○	○	○
地域の人とふれあえる	○					○	○	○
愛着がある	○	○				○		
遊ぶ場所がある				○		○	○	○
歴史・伝統・文化がある			○				○	○
自然がたくさんある	○	○	○	○	○	○	○	○
安全	○			○			○	
交通の便が良い	○			○		○		○
その他								

ゲストティーチャーへのお礼の手紙

B



C



## 授業後の研究会から

### 【授業者の反省】

- ・児童に事前のアンケートをとったところ、地域のことをあまりよく思っていない児童がいた。大和地区のよさを感じてほしいと思い、今回の授業を考えた。児童の変容が見られることを期待している。
- ・ゲストティーチャーは、大和地区に以前在住していた先生に紹介していただいた。大和地区のことをよく知っていて、一度地区外に出ている方を探していただいた。ゲストティーチャーとの打ち合わせは2回行った。1回目は、保護者にとつた「大和地区のいいところ・好きなところ」のアンケート結果を見せ、共感できるところについて聞き取りながら、話す内容について一緒に考えた。2回目は初回の打ち合わせをもとにして、授業の流れと話す内容の最終確認をした。打ち合わせを重ねるにつれ、ゲストティーチャーからも積極的に提案していただけるようになり、大和地区の駅名が「甲斐大和駅」に変更になった話を入れたり、児童からの質問を受けたりすることにした。

### 【研究討議】

- ・ゲストティーチャーの人選がよかった。やさしい語り口で、ゆっくり話していただいた。ゲストティーチャーにふさわしい方で、地域を愛する心が伝わってきてよかった。内容も詰め込みすぎず、大和地区のよさを引き出していた。児童も真剣に話を聞いていた。一度、県外へ出た方だからこそその視点があった。また、人のつながりが強い、交通の便が良いなど、目に見えない部分について取り上げたことも良かった。児童が大和地区のよさを認識することができた。
- ・ゲストティーチャーとの打ち合わせの中でもととなるもの（保護者アンケート）があったので、打ち合わせを効率的にできた。
- ・大和地区の駅名が以前の駅名「初鹿野駅」から「甲斐大和駅」に変更になった話をした際に、資料と同じようなできごとが身近にあったことに児童がとても驚いていた。地域に目をむけるきっかけになったのではないだろうか。駅名変更に対するゲストティーチャー自身の思いもあったが、道徳の授業なので、駅名に対する思いは今回の取り上げ方でよかった。
- ・児童・保護者アンケートを効果的に活用することができた。自分の思いから地域の人の思い、地域の人から保護者の思い、という流れもよかった。
- ・授業の振り返りの中で、「守っていききたい」というキーワードがあった児童が発表できたことはよかった。事前アンケートで地域があまり好きではないと答えた児童も、最後の感想に「昔の町名を大事にすることは大切」「大切にしていきたい」と書いていたので、めあては達成できた。
- ・大和地区のよさを活かした教材になった。より身近な地域での学習をしていくことが小学生にとってよい。「ここに暮らしてよかった」と思えるのではないかな。

### Ⅲ まとめ ー成果と課題ー

道徳の研究授業は、本部会でのこれまで研究の積み重ねが感じられる実践であった。ゲストティーチャーを招くことで、授業がより深まり、地域を知り、郷土を愛する心を育むことができた。ゲストティーチャーとの連携については、ゲストティーチャーの選定、事前の打ち合わせ、授業の意図をしっかりと伝えていくことの大切さを再確認できた。

具体的とりくみについて、各校の実践発表を聞き、教育課程の中でのそれぞれの学校の工夫を知り、共有できた。保護者、地域との連携については新しいことを次々と取り入れるのではなく、何回も繰り返し行うこと、今あるもの（各教科、学校行事等）を意識してとりくんでいくことも大切であることが確認できた。

保護者との連携のしかたについて、良好な関係を築いていくことが大切である。学校と保護者・地域は連携はしているけれど、信頼感がないのではないか。普段の保護者対応、地域の風土を大切にする姿勢を教師自身も意識していくことが大切である。昔よりも保護者も含めて外部との関わり、交流することが増えている。しかし、学校から地域へのきっかけは作るがその後が続かない。学校（子どもも含む）と外部とのつながりは強くなっているかは疑問である。地域をまきこんでのつながりは、何のためにという目的をもって共通理解のもとで行っていくこと、継続していくことが大切である。今後も、保護者・地域と学校と子どもを中心にしたトライアングルがうまく成り立つように何ができるかを考えていきたい。

「地域の中の学校」について、保護者・地域の様々な思いがあるが、思いに振り回される学校ではなく、学校の主体性を発揮していきたい。教育課程への位置付けと教師のオリジナリティを大切にしていきたい。地域と一緒に地域の学校をつくり上げていく連携をしていくことが大切である。

これからも、学校と保護者・地域住民の方々とのコミュニケーションを多くもち、「地域の学校」「地域の子どもたち」という視点でお互いが協力して活動できるよう努めていきたい。そして、地域に「開かれた学校づくり」となるように活動を展開していきたい。